

真言宗醍醐派愛宕山

①長福寺



長福寺は、住職によると天文年間（1,532 - 1,555）に大和の国（現在の奈良県）の修験者である和泉坊 清教印一向が流着し、草庵を結び邑をなし隠居したのが始まりだという。明治元年の神仏分離令、さらに明治三年の大教宣布などに伴って発生した廃仏毀釈の法難にあい一時は廃寺となり、その後清祐和尚が再興して現在に至る。長福寺はまた、神仏習合（神仏混淆）寺院でもある。そして、毎年12月に祭りを行なっている（愛宕権現祭）。また3体の不動明王像や、聖観世音菩薩像、地藏菩薩像、開山清教作 阿弥陀如来像等を安置している。趣があり素晴らしいお寺だった。住職になりたい方はぜひ！

③寺迫運動公園

④老人会の方々が植えた花

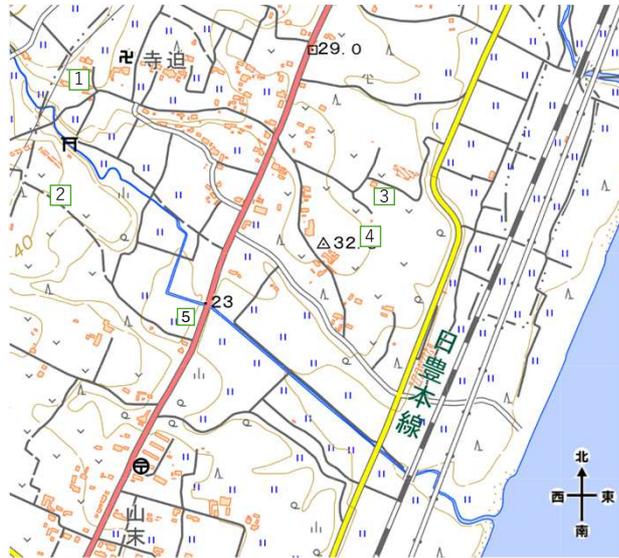


農地を進み、記念碑を進んだ先に運動場がある。この運動場は、ネットやバックネット、簡易的なテントが置かれていた。雑草が目立つところもあるため、地域住民の方が使用する際、転倒などの危険性があると思った。また、この日は老人会の方が年二回行うグランドゴルフをしていた。お話を聞くと、この運動場を作るのに最適だったため作られたそうだ。老人会の会員は12名で、全員近所で農家を営んでいる。戦後すぐから約80年都農町で農家を営んでおり、数年前に口蹄疫で牛の数が減ったため、現在は米やトマトを育てている。老人会はグランドゴルフのほかにも、花を植える活動や地域資源創成学部の先輩方とそば打ち大会を行っている。運動場から歩いてすぐのところにある墓地に老人会の方が花を植えていると聞いたため見に行くと、ピンク・オレンジ・白など色とりどりの花が植えられていた。丁寧に植えられた花はとてもきれいで圧巻だった。老人会の方々はまだ拙い私たちのインタビューにフレンドリーに応じてくださり、都農町の人の温かさに触れることができた。

②神社



田んぼの中にポツンと立っている鳥居が目印。神社の本殿は鳥居から奥に進んで森の中の階段を上った先にある。本殿の周りは木や竹に囲まれている。階段の途中に大きな木の枝があったり、祠に置かれている花が枯れていたりあまり人が訪れていない印象を感じた。地域の人によると冬には祭りが行われていると言っていた。



⑤トマト農家 (hiro君ハウス)



トマト農家の家の横に、トマトとサツマイモを無人販売してあった。ミニトマトが10個以上しっかり入って一袋100円で販売されていた。しっかり太陽の光を遮るために、丈夫な棚の設置に加えて布で遮光しており、新鮮だと思った。また、トマトとサツマイモの横にエコバックとして使ってくださいと紙袋や新聞紙でできた袋が置いてあり、とても親切だと思った。インタビューした都農町の方々が、トマト農家は若い人が多いとおっしゃっていたり、こいのぼりやかわいらしいのぼりが立っていたことから、比較的若い人たちが営んでいるのだろうと思った。

ソーラーパネル 用水路・棚田



地域の様々な場所にソーラーパネルが設置されており、中にはとても長い距離に渡って設置されていたものもあった。帰った後に調べてみた結果、都農町で行われたリニアモーターカーの実験に伴い、設置されたものだということが分かった。地域の数か所には棚田もいくつか見られた。3～4段ほどの段差があり、想像していたよりは傾斜が緩やかだと感じた。普段あまり見ることはない用水路も多く見られた。一つの水路がかなり長く、多くの水田につながっていた。効率よく多くの水田に水を分配出来るように、様々な工夫がなされているのではないと思った。また、用水路の脇に野菜が大量に捨ててあったので、肥料にしようとしているのではないかと考えた。

まとめ

実習を行う前に地図を見ているときは田んぼや寺くらいしかない印象を受けていたが、実際に行ってみると様々な地域資源があった。地域の人々からお話を聞くことができ、地域の実態を把握することができた。地域には田んぼやビニールハウスが多くみられたが、その大半は高齢者の方々が経営しているため後継者不足に喘いでおり、課題もいくつか見られた。特に感じた課題は若い人が少ないため、海が近い東都農は津波が起こった際、避難が難しくなるのではないかとことだ。高くなっている土地や看板が多くみられたが、高齢者が登るのは容易ではないと思った。若者が少ないと災害時だけでなく地域の運営にも影響を及ぼすので、都農町に若い人を呼びこんでいく必要があると感じた。

